

令和元年度普通会計決算認定特別委員会

令和2年10月15日（木）

〔委員会の概要 公安委員会関係〕

元木委員長

ただいまから、普通会計決算認定特別委員会を開会いたします。（10時33分）

直ちに、議事に入ります。

これより、公安委員会関係の審査を行います。

それでは、質疑をどうぞ。

増富委員

前年度も県警察はいろいろな事業を展開してきたと思います。

特に、昨年度は運転免許センターが阿南市と阿波市で開業したということで大変忙しかったと思います。仁木委員もおられるのですが、今までだったら松茂町まで行く必要があったのですが、吉野川市以西にとっても非常に便利になりました。これは、有り難い事業であったと思います。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大が始まって、いきなり4月にくじかれたような状態だったのですが、最近では順調に推移しているということで、今後とも運転免許センターについてはよろしくお願ひしたいと思います。

そんな中、交番・駐在所等整備事業について、民間資金を活用したPFI事業による整備ということで、私の近くの瀬詰駐在所もPFI方式によって整備したのですが、まずは事業の内容について教えていただきたいと思います。

日下拠点整備課長

駐在所整備等PFI事業の現状についてのお尋ねです。

従来の駐在所建築につきましては、施設ごとに設計、建築を発注の上、整備していたところでございます。この駐在所整備等PFI事業は、複数の駐在所の設計、建築に加えまして、約30年間にわたります施設の維持管理を一括して発注したものでございます。

平成30年10月に事業者と契約いたしまして、契約金額は約8億3,200万円となります。対象の駐在所施設につきましては、建築から30年以上が経過し老朽化が著しい16駐在所でありまして、いずれも現地におきまして、旧施設を取り壊し、新たに整備したものでございます。約1年間で16駐在所の整備が全て完了したものでございます。

増富委員

契約金額が約8億3,200万円ということですか。PFI事業は解体、設計、建築、維持管理まで一括してやるというのが特徴ということなんですが、この事業を展開したことによって、どれくらいのコストが削減できたのかお伺ひしたいと思います。

日下拠点整備課長

PFI事業により、どれくらいの事業費の縮減効果があったかという御質問です。

P F I 事業におきましては、財政負担の縮減を示す指標といたしまして、V F M、バリュー・フォー・マネーを用いることとしております。本件事業費の縮減効果につきましては、従来方式の官庁営繕と比較した場合、V F Mでは23.1パーセント、額にいたしまして約1億8,500万円の縮減効果があったものと認めております。

増富委員

かなりの縮減効果があると思っております。

P F I 事業のもう一つの特徴は、要求するサービス水準のみを定める性能発注方式を採用することで、民間ノウハウを最大限に発揮することができるということなのですが、本事業では、これがどのように反映されているのかお伺いをしたいと思います。

日下拠点整備課長

P F I 事業でどのような民間ノウハウが反映されているのかというお尋ねでございます。

駐在所の事務所部分につきましては、来訪者のスペースや来訪者用トイレを従来より広げました一方、応接スペースにおきましては、プライバシーが保たれるよう外から見えにくいような配慮がなされております。そのほかにも、内装では県産木材を多く使用するなど安心感や親しみを感じていただけるような工夫も取り入れているところです。また、事務所入り口の扉をペアガラスとするとともに、駐在所勤務員の視認性の向上や迅速な出動にも資するよう配慮がなされております。

防災対策の面におきましては、制震ダンパーを備えた軽量鉄骨造で最高等級の耐震性を確保いたしましたほか、太陽光発電と蓄電池システムを設置し、災害時における電力も確保できております。

なお、維持管理の面では、30年間にわたりまして、事業者による定期点検をはじめ随所に民間事業者の創意工夫が認められるところでございます。

増富委員

様々なメリットを発揮したと御答弁を頂きました。

本年3月に徳島県警察・地域警察再編計画が策定され、私の地元の川島町の児島という所が再編されたんです。畑の中にあるような駐在所だったのですが、交番化されてパトカーが常駐しているので、付近の住民さんが再々パトカーがうろうろして困るという話もあるんですが、やはり地元に着した交番ということで、行くと誰かがいるのは非常に便利だと皆さんも言っておられます。これは交番化したことによって、すごく良かった。

P F I 事業で一新した駐在所を活動拠点として、警察活動を積極的に展開していかなければならないということで、徳島県警察・地域警察再編計画との関係をどのように考え、今後進めていくのか、最後にお伺いしたいと思います。

田中企画課長

徳島県警察・地域警察再編計画との関係でございます。

県警察におきましては、平成29年3月に警察署の統合を柱といたします警察署再編整備

等総合計画を策定いたしました。また、本年3月には、先ほど増富委員の御質問にもありましたが、県内の治安・地域情勢の変化に対応いたしますため、複数の駐在所を統合の上、24時間体制で活動いたします交番の拡充などを内容とする徳島県警察・地域警察再編計画を策定したところでございます。

これらの計画の実現に向けましては、地域住民の方々への説明はもとより、予算の確保や施設整備などハード・ソフトの両面から部門横断的な対応が求められるところでございます。

このため、警察本部内にプロジェクトチームを設置いたしまして、総合的、俯瞰^{ふかん}的な視点から各種の施策を推進しているところでございます。本年4月に実施いたしました第1期の徳島県警察・地域警察再編計画におきましては、鳴門警察署の高島駐在所、小松島警察署の赤石町駐在所を、隣接する駐在所と統合しまして、勤務員を複数化したところでございます。この両施設につきましては、これに連動する形でPFI事業で新築整備をしたところでございます。引き続き、ハード・ソフトの両面から計画を推進してまいりたいと考えております。

増富委員

特に阿波市、吉野川市におきましては、この徳島県警察・地域警察再編計画によりまして非常に便利になりました。それともう1点、最初に申し上げましたとおり、運転免許センターが県央部にとっては非常に有り難いものの一つになりました。

ただ、実は阿波吉野川警察署は非常に古うございます。交番・駐在所ができました。それから運転免許センターもできました。次は、阿波吉野川警察署を新しくやりますということを書いてほしいのですが、今日はこの辺にしておきます。

耐震化ができていないのは阿波吉野川警察署だけだと思うので、是非ともできるだけ早い段階で阿波吉野川警察署の建て替えを頭に入れて進めていただきたいと思います。

扶川委員

総括説明の中で、暴力団の組織壊滅に努めていると御報告を頂きまして頑張ってください。

9月定例会で、性風俗店に対する取組をいろいろと議論してまいりました。こういう業者と暴力団がつながっているのではないかとといううわさもあります。指定暴力団は減ってきているとはいいいながら、半グレ集団なんか暗躍しているという話も聞きますから、対策にしっかりと取り組んでいただきたいと思いますという観点からお尋ねします。

県内の暴力団について、過去5年の団体数、構成員数、情勢、そのあたりを御説明いただけますか。また、検挙状況も御説明ください。

多田刑事部首席参事官

県内におけます暴力団情勢は、令和元年末で指定暴力団六代目山口組傘下組織2団体と暴力団構成員など約50人を把握しております。過去5年の情勢は、平成27年末では4団体で約230人、平成28年末は同じく4団体で約190人、平成29年末は同じく4団体で約130人、平成30年末は3団体で約90人を把握しております。過去5年以内におけます暴力

団員が関与した事件の検挙状況は合計259件で148人でございます。

主な事件としましては、平成27年に六代目山口組傘下の組長による組織的な野球賭博事件等を検挙し、平成29年には徳島市内の喫茶店で発生しました六代目山口組傘下組員による拳銃を使用した殺人未遂事件などを検挙しております。

扶川委員

暴力団をどんどん縮小させるという取組の中で、資金源の問題は大きいと思います。9月の報道の中で、東京地裁が関東の暴力団の元トップに、特殊詐欺事件の使用者責任を認めて約1億7,000万円の支払を命じたということが報じられました。特殊詐欺事件と暴力団の関係が言われておるわけですが、新型コロナウイルス感染症の給付金詐欺などについても昨日から今日にかけて報道されております。こういう詐欺との関係も含めて、暴力団の資金源をどのように見ておられるのか、それを絶つためにどういう対策をとっておられるのか教えてください。

多田刑事部首席参事官

暴力団は、恐喝、賭博、薬物といった伝統的な犯罪をはじめ、深夜飲食店等からのいわゆるみかじめ料の徴収などの不当な行為により資金を獲得しておりますほか、近年では、密輸事犯や委員がおっしゃったような特殊詐欺など、時代の変化に応じた様々な方法により資金を得ているとみられます。

また、暴力団関係企業や暴力団員ではないんですけれども、密接に交友する者と結託しまして、その組織実態を隠蔽しながら一般の経済取引を装って資金を獲得している状況も見られるところでございます。

こうした資金源を遮断するためには、まず暴力団の資金獲得活動の実態を的確に捉えまして、違法行為の取締り、不当行為の抑止、公共事業や各種民間取引からの暴力団排除など総合的な対策を戦略的に推進することが重要であると認識しております。県警察におきましても、これら資金源遮断に向けた、今申し上げたような総合的な対策を講じているところでございます。

扶川委員

そういう中で、私もうわさを聞きましたが売春行為みたいなものもしっかり見ていただきたいと思います。

それで最後に、今後暴力団壊滅に向けて総合的に取り組む必要があると思うんですけれど、県警察としての考え方を一言お聞きしておきたいと思います。

多田刑事部首席参事官

暴力団組織を根絶するためには、暴力団犯罪の徹底的な取締り、不当行為の抑止、資金源の遮断等、総合的な対策を戦略的に推進することが重要でございます。

県警察におきましては、壊滅に向け暴力団犯罪に対する取締りを徹底し、組織的な関与を追及し、中枢幹部の逮捕、そして長期隔離を図っているところでございます。また、犯罪に至らない不当な要求等の行為につきましても、暴力団員による不当な行為の防止等に

関する法律、いわゆる暴力団対策法を積極的に適用し、これらの行為の抑止に努めております。また、公益財団法人徳島県暴力追放県民センターや自治体をはじめ、関係機関・団体と連携しまして、公共事業や各種民間取引からの暴力団排除施策を推進しているところでございます。

扶川委員

住民や行政、市町村などとも協力して、とにかく暴力団に所属しているということ自体がみつともないことなんだということ、恐れる必要はないんだということ、新型コロナウイルス感染症ではないですけど、正しく知っていくという取組を進めていただきたいと思えます。

生活相談の中で危なっかしいような人に会うこともありました。確かに元暴力団とはよく会いますけれど、現職の暴力団というのはめったに会いません。数も減ってきたんだろうと思えます。一方で、例えばキャバクラの女性を救出に行ったりすると、元気なお兄ちゃんたちに囲まれたりしたこともあります。半グレ集団に対する対策というのもしっかりととっていただきたいと要望して終わりたいと思えます。

喜多委員

警察の皆様方が、重要犯罪から身近な犯罪まで365日24時間、私たちの県民の命を守っていただいていること、毎日ですから大変だなと心からの敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

そういう中で、地元の津田の交番の再編があったと思うのです。昔は留守が多かったんですけども、警察官の姿が見える機会が多くなりました。そういう意味でもほかの駐在所も交番も一緒だと思うのですけれども、やはり警察官の方の姿が見えるということは、地元にとっても、また周辺にとってもすごく有り難いことだと思っております。

そしてもう一つ、パトカーを交番の前に停めてくれているんです。あれはものすごく抑止効果というか、値打ちがあります。できれば交番にパトカーが常時配置されるような仕組みも大事です。住民にとってパトカーがいることは、いざというときに助けてくれるんだなと有り難く思っております。そして、いるだけでなく、地元の中をパトカーが回ってくれるということは、有り難いと強く思います。駐在所にパトカーが配置されると同時に、できるだけ地元ないしは県内各地を回るだけでもいろいろな抑止効果があると思えます。大変な中ですが、これからも続けてほしいと思っております。

何年前から特に集中豪雨による土砂災害が多い中で、消防と一緒にあって、ひどいときは自衛隊と一緒にあって警察官も出動されて救助に当たっているということについても、何でもやらないといけないなということで、大変だという思いと、これからも命を守るために続けて頑張りたいという思いが強くなっております。

最近では新型コロナウイルス感染症で活動も大変な中で、熊本県等で救助に当たっている姿を見ると本当に警察官の有り難さをつくづく思っております。警察官がいなくてもいいような世の中が一番良いと思うのですけれども、今の現実はいざさん方のおかげで生命と財産を守っていただけているということに、繰り返しになるんですけども、心から感謝を申し上げたいと思っております。

そういう中で、決算にも出ておりますけれども、通信指令システム機能強化ということで、110番の機能を上げるために約5,000万円という事業が上がっております。この内容と効果についてお尋ねをいたします。

日浦生活安全企画課長

県警察では、増加する携帯電話等からの110番通報に的確に対応するため、携帯電話等で110番通報した際に、音声通話と同時に発信者の位置情報を通知させるシステムを運用するなど、通信指令システムの高度化を図っているところでございます。

現在の通信指令システムは、平成25年4月1日から運用していた旧システムの更新を行いまして令和2年4月1日から運用を開始しているものです。その特徴として、大型表示システムや110番通報者の位置情報表示、地域警察デジタル無線システムとの接続に加えまして、映像配信機能を向上させております。

その内容は、警察車両に搭載した端末をウェブカメラや画像撮影が可能な可搬式としたことで事故や事件現場の映像をリアルタイムに通信指令システムで配信可能となりました。また、外国語対策として、タブレット端末に外国語翻訳機能を持たせ、英語や中国語等7言語に対応するなどグローバル化に対応可能としました。さらに、隣接県との連携強化として、香川、高知の両県警察の通信指令システムを連動させるなど、県境における事案に対して適切な通信指令業務が可能となる機能などが新たに導入されたものであり、新システムを活用した的確かつ迅速な通信指令により県民の安全安心の確保に努めてまいり所存でございます。

喜多委員

人の命が110番通報によって救われるということもあろうし、私も大きい表示板で通報を受ける体制を見させてもらいましたけれども、複数の方が文字通り365日24時間当たられていることに本当にすばらしいと思いました。110番通報は年間どのくらいの受理件数がありますか。

日浦生活安全企画課長

110番通報の受理件数でございます。

令和元年中の110番通報の総受理件数は6万302件ございまして、そのうち誤接、いたずら等の無効件数を除く有効な110番通報件数は5万3,729件でありました。

ちなみに令和2年9月末までの受理件数は3万9,840件で、そのうち有効件数は3万5,488件であります。

喜多委員

すごい数の受理件数です。大変で休む間がない、トイレに行く間もないと思いました。そして、今も有効な通報が7割か8割ぐらいとありましたけれども、その中でも、本当に110番が必要なものと、まあまあというものとに分かれると思うんです。その対応として警察相談専用電話#9110ということを知りましても、110番する前に急がないのであれば#9110に掛けるような仕組みが、より110番通報の緊急性を大事にするということに

つながるんでないかと思っております。この#9110の受理件数は、余りにも多過ぎて分かりませんか。

元木委員長

小休します。（10時59分）

元木委員長

再開します。（10時59分）

高橋警務部理事官

警察相談専用電話#9110は、専ら相談として受理しているものでありますので、これが全て#9110かどうかという数字を持ち合わせておりませんけれども、年間、大体26,000件の相談が寄せられております。ここ数年においても、約26,000件、約27,000件で推移している状況にあります。

今、日浦生活安全企画課長が答弁しましたように約6万件の110番通報があり、有効は約5万3,000件です。

また、年1回、1月10日に110番の日として広報啓発を図っているところではありますが、引き続き、委員の御提案のあったような緊急以外の場合は#9110に掛けるようにと広報活動を続けてまいりたいと考えております。

喜多委員

2万件ぐらいということで、これもすごい数だと思います。

多分、知らない県民が多いのではないかと思います。今もPRしているということでございますし、もちろん緊急の場合は110番もありですけれども、内容によっては110番に掛ける前に#9110に掛けるように、是非、県民に知ってもらうためのPRをしていただいたら、110番通報は、より緊急の対応ができるのではないかと思いますのでお願いしたいと思っております。

次に、交通事故についてです。

ほかの委員会でも言いましたけれども、交通事故は本当に悲惨です。病気だったら段々悪くなるので親族も諦めが付く面もあるのですけれども、交通事故だけは一瞬のうちに命が失われますので、家族にとって大変なことだと思います。昨日も高校生6人が軽自動車に乗っていて2人が亡くなって、残りの人も重傷という報道がありましたけれども、本当に交通事故をできるだけ防いで、数が減ってほしいと思っております。

徳島県でも一番多い時で100人前後の死亡事故がありました。今は皆様方の努力によって、おととしは30人くらいとすごく減ってきたんですけれども、去年は少し増えたということであります。

少し気を付けたら事故は起こらなかったのにといい思いがいたしますけれども、みんなが交通法規を守ったら交通事故はゼロに近づいてきます。いろいろな交通事故抑止のための御努力も大変だろうと思っておりますけれども、主要施策の成果に関する説明書の中でも交通安全施設整備事業ということで約6億円を使っております。これは主にどのようなことに

取り組んでいるのかお尋ねいたします。

喜多交通企画課長

令和元年度の交通安全施設の整備状況につきましては、信号機の新設をはじめ、LED化による改良、停電による信号機の滅灯対策、交通規制に伴う道路標識や標示の更新等を行っております。具体的には、供用開始が予定されている四国横断自動車道のインターチェンジ付近の交差点や未就学児童が通園する認定こども園付近に信号機を新設したり、LEDの信号については、令和元年度に310灯を整備いたしまして、車両用灯器については約86パーセント達成をいたしております。

そのほか、信号機の滅灯対策といたしましては、自動起動型信号機電源付加装置を1基、静止型信号機電源付加装置を10基整備いたしております。次年度においても道路交通の安全と円滑を図り、交通事故防止につながるよう昨年度と同様にしっかりと推進してまいりたいと考えております。

喜多委員

LED化も進んで、全国的にも上位になるのではないかと思います。

赤、青、黄色は、夜はよく見えるんですが、昼は見えにくいので、LEDは普通の信号機よりよほど見やすいので、特に効果があると思います。実質は100パーセントに近いのではないかと思いますので残りは少ないのですが、積極的に取り組んでいただききたいと思っております。

今年は、今日現在で、交通事故死者数は16人ということで、去年に比べて非常に少ないということも、いろいろな効果によるものだと思っております。やはり、私だけかも分かりませんが、取締りがなかったら漫然としてしまいます。これからも大変だろうと思いますが、取締りの強化も含めて、凶悪な交通事故、いわゆる飲酒運転の徹底的な撲滅も含めて、県民のために頑張ってもらいたいということを要望して終わります。

仁木委員

事前に決算の説明を受けておりますけれども、一つ聞き漏らしていたところがございますので、お尋ねしたいと思います。

令和元年度徳島県一般会計歳入歳出決算附属書類の223ページでございますが、警察活動費の区分08の報償費の部分です。予算は約6,000万円、不用額が約1,900万円で、約3分の1が未執行となっておりますけれども、この分がどのようなものだったのか、お教えいただければと思います。

高橋警務部理事官

警察活動費の報償費の大部分は、警察の駐在所に帯同者が一定の期間在所した場合に、手当ではありませんけれども、報償費を支給しております。月におおむね7万9,000円だったと記憶しております。これが報償費の大部分であります。当然、帯同者の数の推移もありますので残額がこの程度出ています。

あと、残りは表彰の経費なども含んでございまして、例年7,000万円前後の予算で1,000万

円前後の残額が出ているという状況でございます。

仁木委員

駐在所と一緒にいらっしゃる帯同者の分ということ等々をお聞きいたしました。

また、これはいろいろな状況があると思うのですが、駐在所と一緒に来ていただけていないので執行できていないのかなど、どういう状況なのかと思いましたが、お聞かせいただければと思います。

高橋警務部理事官

例年、帯同は人事配置によりまして異なってくるものでありますので、予算は大枠で見積りを取っております。この増減という形ですけれども、今、仁木委員からもありましたように、予算と決算は数字的には少ないのが理想であります。そのあたりは帯同率等々を踏まえまして、引き続き、来年度予算に向けては残額が少なくなるよう見積もっていきたいと考えております。

仁木委員

私の視点は、少なく見積もるというよりも、有効的に見積もっていただきたいと思っております。正当な理由がある不用額を指摘するべきものではないと思っておりますので、その点は省いてとかそういう観点で申し上げたわけではありません。現場の皆さん方で十分に活用していただきたいということを申し上げまして質問を閉じさせていただきます。

元木委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、公安委員会関係の審査を終わります。

議事の都合により、休憩いたします。（11時10分）